

淫宴玩弄下

軍門に降る
双子巫女戦士



カバーイラスト

妄想虜囚
STUDIO WALTZ







淫宴玩弄 下

軍門に降る双子巫女戦士

試し読み版

妄想虜囚

カバーイラスト

STUDIO
WALTZ

目次

人物紹介7
第六章	姉妹と淫魔.....8

人物紹介

亜衣（あい）……天神学園に通う天神子守衆の巫女。麻衣の双子の姉。得意な武具は弓。腰ま

である長髪のポニーテールがトレードマーク。天女の血を受け継ぎ天神に仕える羽衣の戦士。いやらしい男が大嫌いで淫らの誘惑に対抗できる強靱な精神力を持つ。

麻衣（まい）……亜衣の双子の妹。亜衣と同じく天神に仕える巫女であり羽衣の戦士である。

ショートボブの可憐な娘。なぎなた薙刀術を得意とする。

幻舟（げんしゅう）……天津子守衆当主、麻衣の祖母。正確には亜衣、麻衣は幻舟の妹の孫娘に当たる。早世した亜衣、麻衣の母に代わり姉妹を厳しく育てた。

鬼麿（おにまろ）……天女の血と鬼の血をもに持った鬼子。鬼の血を浴びて病びよう臥している。

木偶の坊（でくのぼう）……鬼麿の従者。

鬼夜叉童子（おにやしやどうじ）……地上を淫乱と混沌に満ちた世界に変えようとする鬼獣淫界の首領。不滅の魂を持つ。世の乱れに乗じて復活し、世界を守ろうとする天神子守衆と永きに渡り戦いを繰り返した。

藤原光時（ふじわらみつとき）……ほうおう鳳凰学院の生徒。謎めいた美男子だったが……。

藤原光平（ふじわらみつひら）……光平の弟。チャラい外見に似合わず頭脳も明晰。やはりタダものではなく……。

第六章 姉妹と淫魔

1

天津屋敷は騒然としていた。

「亜衣と麻衣が帰らぬと申すか」

巫女弟子から報告を受けた天神子守衆宗家、幻舟は鬼磨おにまろを幽閉やしほしていた社やしろから屋敷へと歩を進めた。

鬼磨が淫鬼の血を浴びてから一週間が過ぎていた。鬼磨の病状は一進一退であった。聖と邪、ふたつの血を持つ鬼磨はどちらの因子にも強い耐性があり、幻舟の力を持ってしても祈祷術きとうが効きにくかった。力自慢の木偶でくの坊ぼうが押さえつけ、幻舟が祝詞のりとをしたためた和紙を鬼磨の額から生えた角に巻き付ける。力の吸収源である角を封じると鬼磨はいつときのあいだ小康状態となるがそれも長くは続かない。

祝詞の紙は風化しぼろぼろになって粉みじんになってしまふ。そしてまた木偶の坊が鬼

磨を押さえつける。その繰り返しだ。この七日間、風呂にも入らず水を浸した手ぬぐいで拭うだけであつた幻舟の顔は皮脂がてかり、焦燥が浮かんでいる。

邪氣を祓^{はら}つても祓^{はら}つても、目に見えるほどの暗雲が拭いきれない。まるで刀にこびりついた血あぶらのようだ。鬼磨は鬼の形相を濃くしていく。鬼獸淫界のやり口は先祖代々伝えられている。卑劣さにかけては手段を選ばぬ鬼どもであるが、盟主になり得る鬼の嫡子^{ちやくし}に対しては敬意を持って遇するのがこれまでだった。淫鬼の血を浴びせたことが偶然には思えぬ。やつらがこれほど性急にことを進めようとしていることが幻舟はどうにも解^げせなかつた。

すべては巧妙な計略ではないか――。

「むう」

幻舟は巫女弟子からの報告を聞きながら屋敷に入った。夜も十一時、厳しくしつけをした孫娘たちが年頃らしい気まぐれな門限破りをするとは幻舟には思えない。

バサリ――。

引き戸を開けてずかずかと姉妹の部屋に入った。無遠慮に室内を搜索する。麻衣の机の引き出しから紙片を探り当てた。何やら恋文のようである。とうてい若人^{わこうど}とは思えない見事な筆文字で麻衣への想いが甘ったるい言葉でしたためられている。亜衣の机からも――。こちらは凶悪な乱筆で「オレのことだけ考えろ」、「今日のことを思い出せ」、などと書かれている。墨から漂う微かに甘い香気を幻舟は見逃さなかつた。鬼獸淫界の魔の手は孫娘

にもおよんでいたのだ。

やはり――。

天津屋敷が襲撃を受ける直前に肌が粟立^{あわ}つほどの寒気を感じた。ただの凶兆ではなかった。危機とは屋敷への襲撃ではない。それよりももっと恐るべき事態、鬼夜叉童子の復活である。鬼夜叉童子の並々ならぬ意欲があればどの怖じ気を感じさせたのだろうか。

鬼麿の覚醒、孫娘への男の影――。

このふたつは繋がっている。鬼麿が一向に回復しないのはどこからともなく女の香気が漂い、鬼麿の血を沸き立たせるためだ。女陰から淫らの香を垂れ流していたのは、あろうことか亜衣と麻衣だったらしい。幻舟を鬼麿に釘付けにした上で、淫魔の手のものが亜衣と麻衣をたぶらかしていたのだ。

鬼麿と天津姉妹は千年以上の遙か昔のことなれど元は同じ天女の血統にたどり着く。鬼麿が持つ超人的な嗅覚。たとえそれが完全に遮断されていたとしても血の繋がりが魂を揺さぶる。天神結界をいかに強化しても鬼麿の昂揚^{こうよう}が収まらなかったわけである。

むう。幻舟はまたもうなった。すでに容易ならざる事態であった。姉妹に淫魔の手が迫っている。それがわかってても幻舟も木偶の坊もここを離れるわけにはいかなかった。鬼麿が完全に覚醒すれば淫魔大王に変貌してしまう。そうなればすべては終わりなのだ。

（試し読み版はここまでです。本編もお楽しみください）

淫宴玩弄・下 軍門に降る双子巫女戦士 試し読み版

著者 妄想虜囚

サークル 妄想虜囚

カバーイラスト STUDIO WALTZ

発行日 二〇二二年七月二十五日

連絡先 <https://ci-en.dlsite.com/creator/5672>

<http://pixiv.me/mousou02> (ピクシブ)

mousouryosyuu@gmail.com

※本書の無断転載・複製・複写・インターネットウェブサイト上への掲載は固く禁止致します。